

# アフリカ統計資料の収集状況

石崎えり子

## はじめに

アジア経済研究所統計調査部では1963年の創部と同時に統計資料の収集を行なってきましたが、設立当初はほんの書架数段分しかなかった資料も、各方面の関係者のご協力をいただきながら徐々に増え、1995年3月末には10万6000冊を超える蔵書冊数になりました。収集対象地域は、アジア、中東、アフリカ、中南米の発展途上諸国130カ国に加え、その他、旧ソ連東欧諸国、国連および国際機関についても資料を収集しています。収集資料は、統計調査の対象、種類によって統計調査部が独自で作成した10分類（0. 総合 1. 人口、労働 2. 農林水産業 3. 鉱工業、建設 4. 運輸、通信、商業 5. 外国貿易 6. 賃金、物価、家計収支 7. 企業、事業所 8. 金融、財政、国民経済計算 9. 社会、その他）を基本に分類して整理し、所内外の利用に供しています。

## 1 相手機関との直接コンタクトが資料収集の基本

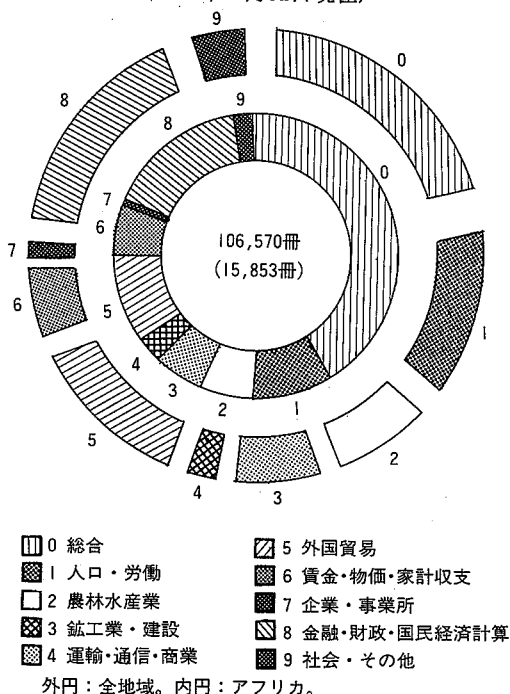
第1図は1995年3月末における統計調査部の主題別統計資料の収集状況を表しています。統計調

査部では、資料の収集方法において、統計作成機関との直接コンタクトによる、当方出版物との交換或いは購入を基本に進めてきました。そしてそれは、ただ単に資料を収集するに留まらず、統計作成機関等との交流や情報交換など多くの得難い付加価値も一緒に生んで来ました。また近年では確実性、効率性などの面から代理店（書店）経由で資料を入手する方法も取られ、アジア地域などでは両方を併用しながら資料を収集している国もあります。しかし、ことアフリカに関しては残念ながら古書を取り扱う書店はあっても、各国の統計資料を継続的に供給してくれるような親切(?)な所はありません。それもこれも「アフリカ」に対する関心が、と言うより需要が、国際的にもまだまだ低いことの証明でしょうか。

そうなってくると、ますます統計作成（販売）機関とのコンタクトが重要になってくるのですが、現実はなかなかこちらの思うようにはことは運びません。相手は地理的にも遠いため手紙によるコンタクトが思うように図れず、もどかしさや諦めを感じることも多いのです。それゆえ時として思いがけない国から資料や手紙が届いたりすると嬉しさも倍増。真っ先に郵便物を開封したり、そしてまたその内容に一喜一憂したりと、まるで

第1図 主題別蔵書数

(1995年7月31日現在)



「恋人のような相手」であります。ただ仕事の性格上資料収集担当者（筆者）は一国に深入りすることなく八方美人に徹し、取り巻きを一国でも多くするようにと日々頑張っているのですが。

## 2 資料収集の手段と方法

その手の内をご紹介しますと、毎年統計調査部で作成される統計資料（発展途上国統計資料目録など）を各国の統計作成機関および関連機関に交換用資料として送付します。その際 Questionnaire（質問状）を同封し、相手機関の住所の確認、交換・購入可能な統計資料等の情報を入手して、資料収集の参考にします。現在交換資料を送付している海外機関は約550機関を数え、うちアフリカは約

115機関にのぼります（しかし、毎年郵便事情などのため数カ国から送付資料が返送されて戻ってきません）。その内訳は、各国の中央統計局に相当する機関・農業省・工業省・大蔵省・中央銀行などです。相手機関からの質問状の返信にしても、アジア地域では早いところなら1、2週間で戻ってくるのに、アフリカにおいては数カ月くらいかかり、極端に遅いと年次が1年ずれて戻ってくることもしばしばです。遅いのは郵便事情による理由のためばかりではなく、相手機関の対応の遅さ、仕事に対するわれわれ日本人との考え方の違いなども関係していると思われます。一度現地の統計機関や政府出版物販売センターなどを訪問されたことのある方なら、さもありなんとお分かりいただけることと思います。それでもまだ戻って来れば良い方で、督促状を出しても「なしのつぶて」の機関も結構あるのです。それでも、送付したこちらの資料は返送されて来ないことから、きつと相手先の何処かで資料は役にたっていると固く信じラブコールを送り続けているのです。

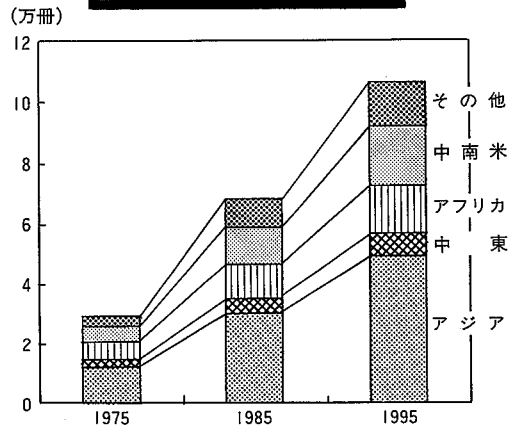
やっと帰ってきた質問状を参考に統計資料を請求しても、運よくインボイスが届くのにさらに数カ月。すぐさま送金手続きをしても日本から遠く離れている地の不利も手伝って、送金から到着まで船便で半年近く。統計調査部に無事到着の運びになるまで、質問状の発送からどんなにスムーズにいても半年以上はかかってしまいます。ただ最近ではファックスを用いて発信を取ったりできるようになってきたので発信にかかる時間を短縮でき、資料収集の強力な味方の出現に大いに喜んでいます。にもかかわらず、質問状の回答を基に資料請求をしているのに、出版時とのタイムラグが大きいのと出版部数の少ないのが原因なのでしょうが、すでに品切れのこともしばしばです。やっとのことで購入にこぎ着け、到着後急いで整理

し閲覧に供しても、他の地域と比べて掲載年次が2～3年古いということになってしまったりするわけです。もちろん交換（寄贈）の場合は購入よりも入手までの時間は多少短くなります。昨年までの資料収集における交換（寄贈）と購入の割合は6対4ですが年毎に購入による収集の割合が高くなってきています。

### 3 国の安定は資料収集充実のための第一条件

それぞれの機関と手紙による交信を通して統計資料の収集を行なっているわけですので、その国の政治・経済情勢の変化は即郵便物の通信不通、あるいは統計資料の作成・公表の中止などの形で資料収集に影響を及ぼしてきます。地域紛争はアフリカに限ったことではありませんが政変などによって政情が不安定になると途端に通信が不通になり、その結果収集資料の数がガタンと減ってしまいます。最近では昨年7月のルワンダの内紛で、ルワンダはもちろん隣国であるブルンジへの送金も不能になり、その後資料が入手できなくなってしまいました。その他にも、ある時期を境に資料の収集が滞ってしまったベナン、リベリア、リビア、ソマリア、スーダンなどの国、筆者の長い担当期間中にもかかわらず一度も統計年鑑などの基本統計類を入手した事のないウガンダ、最近まで届いていた銀行の雑誌などが来ないなあと思っていたらこの6月に新聞等で政情不安が伝えられたシエラレオネなど。統計資料収集開始以来30年の間、多くの国が順番にそのような状況を繰り返してきていると言ってよいでしょう。統計資料は時系列に揃っていることが大切なのですが、50カ国以上あるアフリカの国の中で1960年代から現在まで継続して資料が入手できているのは、アルジェリア、ボツワナ、マダガスカル等10カ国ほどです。

第2図 地域別蔵書数の推移



ただし、その中には北アフリカと呼ばれいわゆるサハラ以南アフリカには含まれない国が5カ国はいています。一国の統計資料の所蔵状況を追っていくとその国の政治経済情勢の動きと一致していることが多いのではないのでしょうか。

### おわりに

このように書いていると、資料収集担当者にとっては落ち込んでしまうような悪条件の数々ですが、「続ける事に意義あり」でラブコールを送り続けているといつかは親切(?)な人の目に留まり、返信を手にするいいこともあるのです。もちろんその裏には、政情の安定化や経済情勢の好転、はたまた相手機関の担当者の気まぐれや偶然等もあるでしょう。実際に、長い間資料を入手することができなかったガンビアから、昨年8月質問状の返信と一緒に1993年版の統計年鑑が届いたので。年鑑というよりは季報のような体裁の資料でしたが20年以上も途絶えていた国の統計年鑑を手にした時は感無量でした。そのことは昨年のアフリカの資料収集における最大の収穫の一つです。ですから、このようにして収集されたアフリカの

統計資料を閲覧して下さる方々にはつい私情が入り、親切にしたり親近感を覚えたりしてしまいます。

またこれはちょっと余談になりますが、資料収集担当者にとっては郵便物に貼られているアフリカの切手も楽しみの一つです。アフリカに生息する動物や植物がカラフルな色彩で描かれているものや人物、歴史的建築物、スポーツイベントを切手にしたものするなど、そのお国柄を表していても興味深く、また他の地域の途上国と比べその種類や量も豊富で、こちらのほうの収集もかなりの枚数になりました。数少ない仕事得(?)のひとつでしょうか。

第2図は地域別蔵書数の推移を表したものです

が、グラフからも分かるようにアフリカの資料は他の地域とほぼ同水準で増加してきています。上述したような悪条件の数々にもかかわらずコンスタントにその蔵書数を伸ばしてきた裏には、アジア経済研究所のアフリカ研究者の暖かい支援と協力があるのです。現地調査の仕事の合間を縫って統計作成機関を尋ね統計資料を入手、そのお陰で、通常ルートより随分早く閲覧に供することができることもしばしばです。また、返事のこない機関を直接訪ねてもらったり、個人所蔵の資料を寄贈あるいはコピーを取らせてくれたりと、蔵書の中にはいろいろな形でアフリカ研究者の協力を得て手にすることができた貴重な資料が数多く含まれています。

(いしざき・えりこ/統計調査部)